

○議長（茅沼隆文）

それでは、次に、日程第5 括認定第1号 決算認定について、一般会計から認定第7号決算認定について、水道事業会計まで、及び日程第12 議案第35号 平成29年度開成町水道事業会計未処分利益剰余金の処分についての計8議題を、開成町議会会議規則第36条の規定により一括議題といたします。

はじめに平成29年度決算に関わる会計年度中の主要な政策の成果及び予算執行状況報告を町長に求めます。

町長。

○町長（府川裕一）

平成29年度決算に係る会計年度中の主要な施策の成果及び予算執行状況報告。平成29年度書く会計歳出歳入決算を議会の認定に付すにあたり、地方自治法第233条第5項の規定に基づき、この会計年度中の主要な施策の成果及び予算執行状況を報告します。

平成30年9月4日、開成町長、府川裕一。

平成29年度一般会計の決算は、歳入総額が58億4,369万9千円、歳出総額が55億2,805万4千円となり、歳入歳出差引額は、3億1,564万5千円で、翌年度への繰越財源額が580万7千円を差し引いた、実質収支は3億983万8千円となりました。昨年度の比較では、歳入総額で2億5,253万5千円の増、歳出総額では、2億2,275万円の増となっています。

なお、今年度の実質収支から、前年度の実質収支を引いた単年度収支に、財政調整基金の積み立て、取崩額などを増減した、実質単年度収支は、3億3,269万8千円の黒字となりました。主な歳入項目では、町民税が、16億2,690万1千円、前年度比34.1%の増で、個人町民税は、人口増や景気の緩やかな回復に伴い増収となり、法人町民税では、大手企業の行政が良好であったことなどから、大幅な増収となりました。固定資産税は、14億4,209万4千円で、家屋については、みなみ地区の活発な住宅建設に伴い増収となるもの。土地については、軽減措置の適用により、土地については軽減措置の適用により、減収となり、前年度0.1%の減となりました。町税全体では、32億1,518万7千円、前年度比14.5%の増となりました。その他の歳入項目では、地方交付税は、2億9,077万9千円、前年度比13.2%の減となりましたが、これは税収増に伴い、基準財政収入額が増となったことが主な要因です。

分担金及び負担金は、1億3,407万1千円、前年度比13.5%の増となりました。これは酒田みなみの保育園の開園により、保育所入所児童数が増になり、保育入所日負担金が増えたことによるものです。

国庫支出金は、6億3,644万7千円、20.6%の減ですが、これは酒田みなみの保育園度整備の支援に伴い、前年度に国の補助金を活用したことから、平成29年度は減となっています。

寄附金は、1億3,490万8千円、前年度比25.1%の増で、これはふるさと応援寄附金が増となったことによるものであります。

繰入金は、694万8千円、91.9%の減で、開成幼稚園の大規模改修に伴い、学校校舎等整備基金の前年度に取り崩したことから、平成29年度は減となっています。

歳出項目の主な増減内容を見ますと、性質別では、扶助費が、11億3,755万1千円、前年度比5.6%の増となりました。主な理由は、酒田みなみの保育園の開園により、保育所入所児童委託料が増となったことなどによるものです。

積立金は、5億3,101万円、前年度比59.3%の増で、財政調整基金を積み増したことなどによるものであります。

普通建設事業費、2億9,164万5千円、前年度比50.8%の増ですが、これは開成幼稚園大規模改修工事などがあったことによるものであります。

以上のように、平成29年度は、町民税の増により、自主財源が伸びたことから、町民サービスの充実を図りつつ、将来を見据えた大規模事業への準備も整えることができました。

特別会計では、国民健康保険特別会計、下水道事業特別会計、介護保険事業特別会計、給食事業特別会計及び後期高齢者医療事業特別会計の五つの歳入決算総額は40億404万円となり、前年度比0.9%の増となりました。

歳出決算総額は、37億1,632万4千円となり、前年度比0.6%の増となっています。個別には国民健康保険特別会計が18億2,782万2千円となり、前年度比2.9%の減で、これは療養給付費や協働事業拠出金の減などによるものです。

下水道事業特別会計は、5億6,644万9千円となり、前年度比1.1%の減で、公債費の減などによるものです。

介護保険事業特別会計は、10億4,668万5千円となり、前年度比3.0%の増で、保険給付費の増などによるものです。

後期高齢者医療事業特別会計は、1億8,837万1千円となり、前年度比5.3%の増で、被保険者数の増に伴う広域連合会への納付金の増などによるものです。

一般会計にこれらの特別会計と企業会計である、水道事業特別会計を加えた決算額の合計は、歳入決算総額、101億6,162万円で、前年度比2億9,427万4千円、3.0%の増。

歳出決算総額は、96億1,641万2千円で、前年度比2億844万6千円、2.2%の増となりました。

なお、一般会計における主要な財政運営指標では、経常収支比率が83.5%と前年度より0.2ポイント上がりました。健全化判断比率関連の指標では、実質公債費比率は、1.5ポイント下がって、6.7%、将来負担比率は25.2ポイント下がって30.5%となり、引き続き健全な財政状況が維持されています。

それでは、第五次開成町総合計画の八つの政策に沿って、平成29年度決算の概

要を報告いたします。

町民主体の自治と協働を進めるまち。

町民が主役の自治を進めるため、町民、事業者、団体などの多様な担い手との協働を意識した事業を展開をしました。特に自治会を中心とした地域活動の活性化に取り組み、みなみ地区では、みなみ自治会設立に向けて準備委員会を組織し、準備を進めました。

まちづくり町民集会は、子育てタウンミーティングと題して、町内5会場で開催をし、子育て中の方々と子育て支援のあり方について、様々な意見を交わすことができました。広報紙は常に読み手を意識した魅力的な紙面とするため、町民の方々からのアイデア等いただきながら作成をいたしました。その成果により、広報かいせい11月号が全国広報コンクール広報町村の部で入選三席を受賞いたしました。

コミュニティ施設の管理では、宮台老人憩の家トイレ改修工事や、河原町公会堂外壁塗装工事など、地域活動の拠点となる地域集会施設の補修を計画的に進めました。

未来を担う子どもたちを育むまち。

母子健康包括支援センターひだまりを保健センター内に設置し、次代を担う子どもを安心して産み育てられるように、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援をしました。また乳幼児を持つ家庭が安心して外出できる環境づくりとして、赤ちゃんの駅の認定を開始をし、8施設を認定いたしました。新たに母子保健事業とタイアップをし、ブックスタートに取り組みました。7から8カ月、児童健康相談時に絵本をプレゼントし、絵本を通じて大切な時間を赤ちゃんと共に共有する喜びを伝えました。

平成31年度開始に向けた3年間教育のための開成幼稚園大規模改修工事が完了しました。空調設備の設置やバリアフリー化、外壁塗装等を行い、幼稚園新園舎の装いが新たになりました。県立吉田島高等学校の生徒による指導のもと、幼稚園児が開成弥一芋の植え付け野菜の収穫体験を行い、収穫した野菜を給食で提供するなど、食育体験により食に感謝する心、食事を大切に作る心、食事を残さず食べる心の醸成を図りました。

また、青少年健全育成論一環として交流都市である北海道幕別町との児童を招き、子どもたちの交流を通して、町同士の絆を深めました。

健康を育み、町民がいきいきと暮らせるまち。

少子高齢化対策や県が主導する未病の概念など、健康づくりに未病の概念など、健康づくりに関連する社会情勢の変化を踏まえ、第2期会開成町健康増進計画・食育推進計画を策定をいたしました。平成26年から28年度に実施した日本一健康なまちづくりプロジェクトの取り組みを一層促進するため、普段の自分の健康状態をチェックできる、未病見える化コーナーを新たに保健センター内に設置をし、様々な健康測定機器を町民が手軽に利用できる環境を整え、健康意識の向上を図りました。

高齢者の増加に対応した地域包括ケアシステムの推進に努めるとともに、介護予防事業等を実施をしました。また平成30年から32年度期間とする第7期高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画を策定しました。町内巡回バスが2年間の試行運転を終え、本格運行をスタートしました。本格運行にあたり2台体制での運行、北部地域のバス停の増設、町内2カ所の子育て支援センターをつなぐ経路の設定等、より使いやすく、親しみやすい路線となるよう、改善しました。

なお、新たな車両として、福祉車両を導入し、車椅子の方でも利用ができるようになりました。

スポーツの推進では、各種教室やスポーツ大会を開催し、誰もがスポーツに親しむことができる環境を整備しました。

開成スポレクフェスティバルでは、サイクルスポーツイベント、あしがらロングライドa r o u n d開成、ライドハンターズi n開成を同時開催し、県内外から参加した多くの方が、すみ渡った空の下で、スポーツの秋を満喫しました。

安全で安心して暮らせるまち。

近年増加している自然災害などに対し、特に減災を意識し、地域防災力の向上に努めました。大地震に伴う火災原因の多くが、電気によるものであることから、通電火災の危険性を訴え、自治会と協働して、感震ブレーカーの設置を新たにはじめました。また、総務省消防庁の委託事業として、自治会消防団、町が一体となった消防防災施設マップを作成し、今後の施設管理体制の確立を図るとともに、共助の観点から災害時地域で活動できる地域防災リーダーを育成し、自主防災会の体制強化を図りました。

消防団等の活動では、防火衣などの装備の充実を図るとともに、小型動力ポンプ積載車を1台更新をしました。また、消防団員の確保及び地域消防力の強化を目的とした開成町消防組織強化推進連絡協議会を設立をし、町、消防団関係者、自治会、町内事業所等と連携して、消防団員の募集やP R活動を展開をいたしました。

防犯対策では、自治会から設置要望のあった箇所及びあじさい農道にL E D防犯灯の設置をし、歩行者等の安全確保に努めました。

交通安全対策では、地元自治会との意向を受け、県へ要望していた牛島地区の開成中央通り交差点に信号機が設置され、子どもをはじめとした利用者の安全・安心が実現されました。

各種交通安全教室等に関しては、交通指導隊をはじめ、各自治会、幼稚園、小中学校、松田警察署の協力のもと、登校指導や交通安全教室、子ども自転車運転免許制度、高齢者を対象とした、シルバードライビングスクールを実施をいたしました。交通安全子ども自転車神奈川県大会では、開成南小学校チームが3位入賞するなど健闘いたしました。

自然が豊かで環境に配慮するまち。

地球温暖化対策やエネルギー対策として、原子力や化石燃料に頼らない新エネルギーへの転換が求められており、環境に配慮した取り組みを進めました。再生可能

エネルギーの地産地消を進めるため、電力会社と事業促進の協定を締結をしました。この協定に基づき、役場庁舎や町民センター、幼小中学校、福社会館は、メガソーラーで満たされた電力が供給され、再生可能エネルギーの地産地消を実現しました。一般家庭においては、低炭素社会の実現及び地球温暖化防止に供するため、ゼロエネルギーハウス導入補助制度に支援をしました。また、家庭における生ごみの減量化、資源化を図るため、「おしゃれdeキエーロ」「ベランダdeキエーロ」の普及促進に努めました。

都市の機能と景観が調和するまち。

良好な市街地の形成及び都市計画道路駅前通り線の整備による都市機能の強化を図るため、駅前通り線、未整備区間について土地区画整理事業実施に向けた準備として基本設計を実施をしました。

安全で快適な町内道路、ネットワークを維持するため、金井島地区の町道113号線や円中地区の町道200号線等の舗装補修工事を行うとともに、町道改良に向けた、牛島地区の町道235号線の用地買収等を実施をしました。公園の維持管理において、公園ボランティア等を代表に向けた牛島地区の郷土235号線の土地用地買収等を実施しました。公園の維持管理において、公園ボランティア等を対象に、活動の充実や発展を図るため、樹木の維持管理の専門家である樹木医を講師に招き、研修会を開催しました。

上水道は、本館未整備の配水管布設工事のほか、耐震化を図るため、高田第一浄水場、着水井及びポンプ室耐震補強工事を実施をしました。また非常時に対応するため、第5水源自家発電設備新設工事を実施しました。

下水道は牛島、上延沢、吉田島地区の管渠の布設工事を実施しました。また、今後10年間の各種汚水施設整備の手法及び区域などを定めるアクションプランを策定しました。

個性豊かな産業と文化を育成する町。北部地域の活性化策として、地方創生推進交付金を活用し、協議会やプロジェクト部会において農業振興と交流人口の拡大に向けた個別事業の検討や試行を進めました。同時にその基礎資料として、農業体験プログラムや北部地域の魅力を効率的に外部発信していくための調査等を実施しました。

新規就農者確保、育成を目指し、農業次世代人材投資事業交付金を活用し、新規就農者財政支援をしました。

北部地域の交流、観光の拠点であるあしがり郷瀬戸屋敷については、指定管理者制度導入し、せとわらしまつりをはじめとしたイベントの充実や案内所を改修して、カフェを新たにオープンするなど、民間事業者の能力や経験を取り入れ、施設利用の促進や地域活性化を図りました。

開成町あじさい祭りは、第30回の記念事業として品種改良により誕生した新品種のあじさい、開成ブルーのお披露目をはじめ、開成町産の米の販売や足水体験などを実施をし、約19万人が来場をしました。

開成町阿波踊りも第30回の記念事業として、特製ステージを設営し、総勢23連の踊り手と鳴り物、そして観客が一つにつながり、1万人が阿波踊りの熱気に包まれました。

効率的な自治体経営を進めるまち。

行政システムの効率化において、住民ニーズが多様化、高度化する中で、的確に対応する職員を育成するため、各種町内会研修をはじめ、市町村研修センターなどの派遣研修を受講することで職員の能力向上を図りました。

固定資産の評価替えに際し、土地の利用状況や家屋の建築状況などを確認する航空写真撮影では、近隣自治体と共同で事業を実施し、業務の効率化を図りました。行政、防災の拠点である新庁舎の建設については、実施設計が完了し、新庁舎建設予定地となる町民プールの解体工事に着手しました。

以上、平成29年度に実施した主な事業を報告しました。都市開発基盤整備事業は、町の基礎を築くものでありますが、この基礎の上で人が活躍してはじめてまちづくりが達成されたこととなります。

みなみ地区では住宅の建設はもとより、商店等の開業も進んでいきました。今度は何が建つかな。こういうお店があると良いなという未来に希望が見えるような声も聞こえてきます。また工業専用地域には、企業誘致第1号の立地が決定し、12月に稼働しました。新たに企業が進出してきたことは、雇用促進にもつながり、町がより一層元気になります。

また平成29年度は、若い世代が大いに活躍した年となりました。文命中学校野球部が春季県大会で初優勝し、全国大会に出場したことをはじめとして、スポーツ、文化と様々な場面で開成町の若い世代が大きな舞台で活躍をしました。若者が活躍する姿は清々しく、老若男女問わず、みんなで応援することで一つになり町全体が明るくなります。また何かに打ち込み、活躍した経験は、近い将来彼らが世界を舞台に活躍する際の手助けになることでしょう。

開成町は小さい町です。小さい町だからこそ町民が一つになりやすい環境があります。今後も町民はじめ町で活動する全ての企業団体とスクラムを組み、総力を挙げて魅力あふれる取り組みを進め、いつまでも住み続けたい町を築いてまいります。町議会の皆様には今後とも御指導、御支援よろしく願いいたします。

最後に一般会計特別会計並びに財政状況に関する資料を添付をしましたので、これを持ちまして予算執行状況の報告といたします。ありがとうございました。

○議長（茅沼隆文）

本日はここまでといたします。

明日は一般会計から順次細部説明を行います。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後 3時33分 散会